騒然、未明の成立劇

国会内外 平和希求、声届かず

安保法・本紙記者ルポ

戦後日本の安全保障政策を大きく転換する安保関連法が19日未明の参院本会議で可決、成立した。法に反対し徹底抗戦してきた野党が「（同法は）明確な憲法違反だ！」と叫ぶと、与党は「議会のルールを守れ！」と応じ、騒然とした中で討論と採決が行われた。国会正門前に集まった学生らの声は与党議員に届かなかったが、世論の高まりで法の行使を阻止しようと結束は一層強まった。（東京支社・古頭哲）

参院本会議で行われた安保関連法案の記名投票。与党などの賛成多数で可決、成立した＝19日午前2時9分

日付が変わって19日午前0時5分。本会議開始5分前を告げるベルが鳴ると、次々に議員が本会議場入りした。山崎正昭議長が着席し、議事日程を読み上げると、野党議員は「認めないぞ！」「廃案だ！」と声を張り上げ、独特のしわがれ声は怒号にかき消された。

討論は5人で、各15分の時間が割り当てられたが、民主の福山哲郎氏は制限時間を大幅に超え、約30分にわたって法の違法性を訴えた。自民の大沼瑞穂氏（山形選挙区）ら与党議員から「約束違反だ！」とやじが飛んだ。同じく自民の岸宏一氏（同）は最後列の席で、じっと耳を傾けた。

山崎議長が同1時前、討論を打ち切るよう促すと、締めくくりに福山氏は安倍政権を批判し国会正門前などに集う大学生らのグループ「SEALDs（シールズ）」の存在に言及し「残念ながらこの法案は採決されるかもしれないが、われわれは試合に負けて勝負に勝った。国会の中と外がこれほどつながったことはなかった」。

引き続き自民、維新、公明、共産が各党の考えを主張し、賛成・反対討論は同2時に終結。戦後政治史に刻まれるであろう歴史的な瞬間が迫り、本会議場がざわつき始めた。

記名投票の際、演壇上で一部の野党議員が「戦争は許さない！」「憲法と平和主義を必ず取り戻そう！」などと叫び、山本太郎氏（生活）は「牛歩戦術」で抵抗した。投票結果は賛成148票、反対90票。与党議員は満足げな表情を浮かべ、野党議員はうなだれた。

野党が平和安全法制特別委員会の開催を阻止しようと、理事会室前の通路を封鎖した16日夕からほぼ2日半が経過していた。自民の議員が同2時半ごろ、控室に集まった。菅義偉官房長官、岸田文雄外相、中谷元防衛相、谷垣禎一幹事長らが訪れ、議員を慰労し謝辞を述べると、そのたびに大きな拍手が沸き起こった。

自民の会合が終わると、開け放った議事堂の窓から国会正門前に集う若者の声が聞こえてきた。「採決撤回！」「戦争反対！」「安倍内閣は絶対許すな！」。だが、自民の議員は気に留める様子もなく、笑顔で議事堂を後にした。

取材を終え、正門前に足を運んでみた。同3時をすぎても熱気あふれる集会が続き、参加者は今後も活動を続けていくことを確認した。取材する場所をめぐり、報道陣と警察官が口論する場面があった。記者は報道の自由を訴え、警備に支障のない範囲内での取材活動を求めるが、警察官は両手を広げて一歩も動かない。関東の弁護士有志で結成した「見守り弁護団」が仲介し、事なきを得た。

同法に抗議する集会に参加していた女性が18日夕、公務執行妨害の疑いで警視庁に現行犯逮捕された。弁護団の弁護士によると、管轄する麹町署で身柄を拘束されていた容疑者と接見しようとしたが、担当の警察官から「安倍政権に意見するような弁護士には会わせられない」と断られた。弁護士の接見は憲法と刑事訴訟法で保障されている。

安保関連法の成立が強権政治体制の台頭につながりかねないと危惧しているのは、記者1人だけではないはずだ。